



むさしむらやま

教育

第100号

令和4年12月15日発行

まちづくり学習の取組 特集号

まちづくり学習～生きる力を育むために～

子供たちが豊かで健やかに成長するためには、学校だけでなく地域の皆様の力も必要です。信頼できる大人と多くの関わりをもち、愛情を注がれることにより、自己肯定感や他人を思いやる心など豊かな心が育まれます。

また、地域の皆様に支えられ学んでいくことで、地域への愛着が芽生え、地域の担い手としての自覚が育まれます。

武蔵村山市の子供たちが、変化の激しいこれからの社会を生き抜き、多摩都市モノレール延伸が実現したときに、この武蔵村山市の担い手として活躍できるようにするためには、地域の皆様のお力を借り、学校と地域が一体となって、子供たちに『生きる力』をつけていくことがとても重要になります。

この『生きる力』で特に重要になってくるのが、「自らの力で行動する」ということです。

そこで、来年4月から、すべての小・中学校で総合的な学習の時間等を通して、**まちづくり学習**に取り組んでいくことになりました。

まちづくり学習をしていく上で特に大事にしていきたいことは、「～をしてほしい」というお願いだけではなく、武蔵村山市のために自分たちができることを考え、地域の皆様と関わりながら、自分たちの考えたことを実現するために、行動をするということです。

ぜひ、地域の皆様にも、このまちづくり学習の意義等をご理解いただき、充実した学習にしていきたいと考えています。

武蔵村山市教育長 池谷 光二

本市では、令和3年3月に、「武蔵村山市第五次長期総合計画（令和3年度～令和12年度）」を策定し、本市が目指す新たな将来都市像を「**人と人との絆をつむぐ 誰もが活躍できるまち むさしむらやま**」と決めました。その実現に向けて、計画的なまちづくりを推進していくこととしています。今後の「まちづくり」にあたっては、現代社会の様々な変化に柔軟に対応するとともに、多摩都市モノレールの延伸にあわせた公共交通の再編をはじめとして、少子高齢化への対応、豊かな自然環境の保全などに的確に取り組む必要があります。

そのなかで、将来の本市を担う子供たちが、ふるさと武蔵村山に愛着をもつとともに、自分たちが住む市の目指すべき将来について考え、行動していくことが新たな将来都市像の構築及び実現につながると考えます。第五次長期総合計画に定められた「持続可能なまちづくり」を推進していくため、市内小・中学校において、本市の理解を深めるとともに、「まちづくり」に参画していく学習を各教科等に関連付けて実施していくことを、今後の学校教育で実施していきます。

編集・発行

武蔵村山市教育委員会

〒208-8501 武蔵村山市本町1-1-1

TEL 042-565-1111

◆問合せ先◆

教育総務課 市役所内線 424

第一小学校

10年後の武蔵村山市について考えよう

第6学年は、総合的な学習の時間として「10年後の武蔵村山市について考えよう」という単元の学習をしています。7月には、教育指導課 加藤由裕指導主事に導入の授業をしていただきました。武蔵村山市の現状や目指すべきまちづくりについて話を聞き、児童が自分の住む武蔵村山市をどのようにしていきたいのか考えました。その際に「子供もお年寄りも関係なく、みんなが楽しむことができる公園を作りたい。」「水族館があったらいいと思う。」「モノレールでは、景観が崩れるから地下鉄があったらいいのではないか。」「歌舞伎場が有名だから、工場見学と商品について知ることができる博物館があったら面白そう。」など、大人には思いつかないような様々なアイデアが出されました。



現在は、同じような考えをもった児童のグループを作り、自分たちの考えをまとめています。市内のどこに作るのか、どれだけの規模のものにするのか、どんな魅力があるのかなど実現するとしたらどうしたらよいか具体的なことまで考えています。今後は、児童がまとめたことを市役所の方に伝え、様々な意見をいただく予定です。少しでも児童の考えていることが伝わるように、準備をしていきます。今回の学習を通して、自分たちの住むまちに目を向け、その魅力について考える機会にしたいです。また、まちづくりに参画しようとする態度を育て、自分も市民の一人として武蔵村山市への愛着をもち、よりよいまちづくりをするためにはどうしたらよいか考えていきます。



第三小学校

武蔵村山知名度アップ大作戦
～子供たちの挑戦記～

第三小学校ではこれまで、武蔵村山市の発展のために、多くの活動をしてきました。今から6年前、モノレールの延伸を実現させるために、子供たちの手で動画やLINEスタンプを制作し、その収益を寄付する活動から始まりました。そして、次に取り組んだことは市のイメージをアップさせるための活動「武蔵村山知名度アップ大作戦」です。市の宣伝となる絵本を制作して浅草や上野で配布をしたり、市の魅力を詰めたラップを制作してYouTubeで動画を配信したりと学校の外に飛び出して多くの活動をし、確かな自信を手にしてきました。



そして、これまでの活動の集大成となる「武蔵村山知名度アップ大作戦メモリーズ」では、これまでの課題を改善するため、プロのミュージシャン、映像監督の力を借りて宣伝動画を作ろうと考え、市の協力も受けて、ふるさと納税型のクラウドファンディングを使って、制作費を募りました。

児童は返礼品を作成したり、多くの方にご協力いただくための宣伝方法を考えたりと自分たちで解決方法を模索し、チャレンジの成功に向けて全力で学習に取り組むことができました。

そして、動画の撮影においては、様々なコマーシャルやミュージックビデオを制作しているチェンコ塚越監督の指揮のもと、本格的な機材やドローンを駆使したスケールの大きな撮影となりました。完成した動画は、市民会館で完成発表会を行いました。

数多くのメディアや、本市の観光大使である薬丸裕英さんのブログで取り上げていただくなど、これまで1万人を超える人に見ていただいています。子供たちの目標の再生回数10万回を達成するためにも、この動画を既にご覧いただいた方はぜひ多くの人に宣伝していただき、まだご覧いただけていない方は二次元コードを読み取ってぜひご覧ください。

「武蔵村山知名度アップ大作戦メモリーズ」始動

現在の寄付合計
1,658,000円
目標金額：1,650,000円

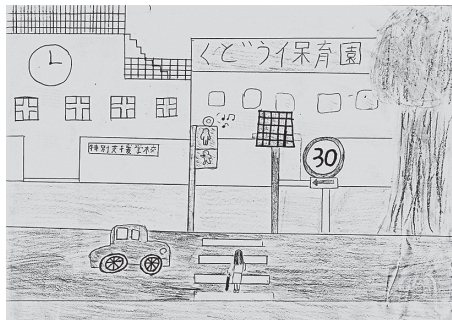
ご支援ありがとうございました！



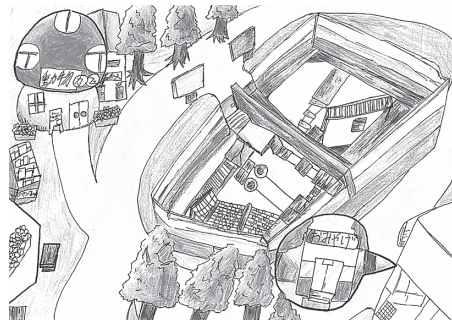
第八小学校

まちづくりを考えよう

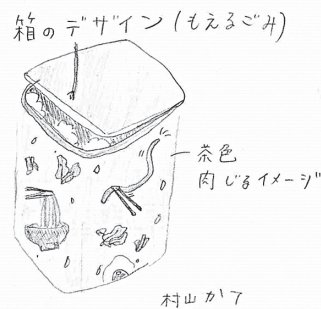
第八小学校の第6学年では、故郷である武蔵村山市のまちづくりについて考え、様々な教科の授業の中で意見を交流しました。社会科の「子育て支援の願いを実現する政治」で、市の行政の構造を学習した後、どのような武蔵村山市にしたいか、なってほしいかを子供たちと考えました。その後、国語科の「私たちにできること」で提案文の作成方法を学習し、子供たちの思いを提案文にしました。作成した提案文を武蔵村山市ホームページの「市長への手紙」に送ることで、自分たちの思いを伝える学習をしました。



障害のある方のための横断歩道



アスレチックやお店のある
武蔵村山の名所づくり



武蔵村山市オリジナルゴミ箱

提案文の作成と同時に、自分たちの考えを絵にすることで、より相手に思いが伝わるようにしました。

子供たちは、自分たちの住んでいる武蔵村山市が「こうなればいいな」といっぱい考えることができました。武蔵村山市が好きなので、今後このようになってくれるといいなという様々な思いがあるようです。今後は武蔵村山市のまちづくりのために、自分たちがどのように関わっていけばよいか考えさせていきたいです。

第十小学校

「学校×地域」でまちづくり学習をアップデート

第十小学校では、今年度「夏まつり」をリニューアルし、児童が主役となる内容に生まれ変わりました。学校全体を「チャレンジエリア」と「マーケットエリア」に分け、児童自身が企画したお店を開きました。「チャレンジエリア」では、輪投げやボウリングなどのミニ競技のお店が並び、たくさんの笑顔があふれていました。「マーケットエリア」は、今回のリニューアルの目玉で、児童が制作したものを、保護者向けに販売するエリアです（高学年の金融教育・起業家教育等をねらいとして実施）。



地元農家と協力しての
訳あり野菜販売

その中で6年生は、訳あり野菜の販売に取り組みました。総合的な学習の時間で食品ロスについて学んでおり、その過程で決まったものです。本校の周りには、まだまだ多くの畑があり、近くの農家の方から学んだり、訳あり野菜を提供していただいたりと、地域とともに学習を進めることができました。売れ行きも好調で、用意した野菜は完売となりました。

その後も地域のネットワークを広げ、様々なゲストティーチャーを招いたり、児童が地域探検や見学に出かけたりしています。

10月19日には、イオンモールの寺川ゼネラルマネージャーをゲストとしてお招きし、高学年に対してイオンモールの地域貢献についてお話いただきました。児童は、普段よく出かけているお店に食品ロスを減らすための工夫があったり、地域の人々が集まれるようなイベントを企画されたりしていることを知り、これをきっかけに、さらに学習を広げていく予定です。



イオンモール
寺川ゼネラルマネージャーを
招いての授業

本校では、このように地域の農家や企業、さらには今年から近くにできた子ども食堂などと連携し、自身の将来について考えたり、市のまちづくりについて活動したりしています。地域とともに学ぶことで、学校に新しい風が吹き込み、児童のみならず教員も新たな刺激を受けています。「学校×地域」で、まちづくり学習をさらにアップデートしていきます。

「まちづくり学習」の推進について

第五次長期総合計画（令和3年3月策定）

【将来都市像】

人と人との絆をつむぐ 誰もが活躍できるまち むさしむらやま

第五次長期総合計画における まちづくり

- ・現代社会の様々な変化に対応
- ・多摩都市モノレールの延伸
- ・少子高齢化への対応
- ・豊かな自然環境の保全 など

まちづくりの理念

- 1 みんなで学び、考えて行動する、支えあうまちづくり
- 2 安全・安心で快適に暮らし続けることができるまちづくり
- 3 地域に根づく文化や産業と自然を生かした
個性あるまちづくり
- 4 計画的に進める、持続可能で効果的なまちづくり

子供たちの「まちづくり」への参画

「まちづくり学習」で目指す児童・生徒

市や地域に愛着をもつとともに、
市の発展や課題について考え、
問題解決に取り組む児童・生徒



○どんな学習を想定しているか？

学校では、各教科等で地域理解や伝統行事等を学ぶ授業を毎年実施してきました。
これまで積み上げた成果を生かしながら、各学校、学年の実態に応じて「まちづくり」に関する取組を計画していきます。

学習内容の例

- 【地域理解】 地域の特色、地域や施設の見学、人々とのふれ合い
- 【自然環境】 環境学習、保存活動
- 【産業・経済】 農業や工業、まちの人々の仕事、食育
- 【安全・防災】 地域の安全や防災の取組
- 【地域貢献】 奉仕活動、地域の活性化
- 【伝統文化・歴史】 文化的行事、地域の歴史、伝統文化の継承

本市では、令和4年9月「ゼロカーボンシティ」宣言をしたことから、(仮称)ゼロカーボンチャレンジ校を指定します。

(仮称) ゼロカーボンチャレンジ校

【三中校区】 第三小学校、雷塚小学校、第三中学校

次世代への環境意識の醸成を図ることを目的として、地球温暖化や環境に関する諸課題についての理解を深め、自分ができることを考え具体的に行動することができる児童・生徒を育成するため、まちづくり学習の一環として三中校区の3校を令和5年度に推進校として指定し、取り組んでいく予定です。

